

カラフトアカネズミ

Apodemus peninsulae giliacus

ネズミ科



カラフトアカネズミ（どちらも）

名前の由来

同一種ハントウアカネズミがサハリンにも分布することから。ネズミは暗い所に居るので「根棲み」、あるいは「穴棲み」から、「寝盗」からなどの説がある。

漢字名：樺太赤鼠

特定種

北海道レッドデータ：留意種（N）

形態的特徴

頭胴長（鼻先から尻尾の付け根まで）72～81mm、尾長72～86mm。後足長（後足の指先から踵まで）21～23mm。背面は栗色で腹面は白。エゾアカネズミに似るが、背面の毛は柔らかく刺毛がない。エゾアカネズミとヒメネズミの間くらいの大きさ。

類似種：エゾアカネズミ、ヒメネズミ。

エゾアカネズミは後足長が25～28mmと大きい。

ヒメネズミは細身で小さく、後足長20mm未満で、背中の色はやや暗め。

生息環境・分布

アカネズミがいる所では草原や灌木林に生息するが、アカネズミがない場合は森林に生息する。

分布：カラフトアカネズミはハントウアカネズミの亜種。^{*} 国外ではハントウアカネズミがサハリン、シベリア、中国

東北部、朝鮮半島に広く分布する。国内では、北海道に分布。北海道内では、北海道本島に分布。

十勝地方では、平地から山地の草地や樹林に広く分布する。

^{*} 亜種：同じ種が地理的に隔離され、独自の分化をとげ、形態的に違いがあるもの

食性・他生物との関わり

実験ではチョウセンゴヨウ、ヒダカゴヨウなどのマツの実、ミズナラの種子などを食べた。

天敵は哺乳類、タカ・フクロウ類など。

繁殖生態・寿命

地上にも営巣し、地下にも単純なトンネルを掘るといふ。巣材として、外側にはイネ科草本、内側には広葉樹の葉を用いるといふ。

繁殖期は4～8月と推測され、1～7子を産む。

推定寿命は野外で11ヶ月。

興味深い話

■染色体数には著しく変異があり、2n=48～61であるといふ。

■カラフトアカネズミはハントウアカネズミの亜種。分類学的な検討の余地があるといふ。

■十勝地方のアイヌ語ではネズミ類一般を「エルムン」と呼ぶ。

配慮事項

アカネズミ類はヤチネズミの仲間に比べて種子などを多く食べるので、草地だけでなくクルミやカシワなどの樹林が必要と考えられる。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
出現期	■												
繁殖期				■									

参考文献

「日本の哺乳類」阿部永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明 東海大学出版会 1994
「日本動物大百科1 哺乳類I」日高敏隆 監修 平凡社 1996
「北海道 森と海の動物たち」エコ・ネットワーク編 北海道新

聞社 1997

「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館編集、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004

魚類

底生動物

爬虫類
両生類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ